

平成 22 年第 4 回定例会-3E(第 7 日 12/6)

●議長(浅野正明) 渡辺賢次議員。(拍手)

[渡辺賢次議員登壇]

●渡辺賢次議員 1 期目の議員で質問に立たせていただいて、非常に恐縮しておりますが、やはり大事なもののなので、質問させていただきます。

まず、10 人削減ってということであります。ここで、市民あるいは市政への影響をどのように考えていらっしゃるのでしょうか。ひょっとしたら、混乱も懸念されるところでありますので、お伺いいたします。

次、2 番目に、定数 40 人の根拠であります。説明の中で、法定定数等は考慮してませんよというお話でした。2009 年度の 1 万人当たりの議員数ですね、タイミングよく日経グローバルで特集が載っておりました。千葉県では 1 万人当たり 1 人を切っている市、5 市あります。千葉市、船橋市、市川市、松戸市、柏市 ですね、5 市あります。この中で政令市であります千葉市を除きますと、船橋市が一番少ないんですね。0.84 という数字が出ております。

東京を囲む埼玉県、埼玉県で 1 万人当たり 1.0、1 人を切っている市は 3 市。これも、政令市含んで 3 市しかありません。そして神奈川県、こちらは、やはり 横浜・川崎含みまして 5 市であります。この数字だけを見ますと、船橋市は県下で 2 番目に 1 万人当たりの議員が少ないという論法になります。長谷川議員のお話では、こういったものは数ではなくて質というようなお話もありますので、この数字がどこに根拠があるかという話になると、どこにもやはりないんですね。

それで、ちょっと気になるのが、こういうお話をちょっとしていいのかわからないんですが、組織のあるところ、こちらはやはり票が固いですね。どういう表現をしたらいいのかわからないんですが、保守系といいますか、中道右派といいますか、いわゆる、他の会派がそうじゃないという言い方をするわけではな いんですが、一般的に地域に根差した議員という形で、そういう組織を持たない方たちの人数になりますと、結果はどうなるかわからないんですが、40 という数ですと恐らく半分、そういった地元あるいは先ほどの表現が適切かどうかかわからないんですが、保守あるいは中道右派と言われる方たちの人数は、恐らく 20 を割るであろうと、私は予想いたしております。そうしますと、船橋市 24 コミュニティーですね。1 コミュニティーの中でそういった議員がいなくなる可能性 がある。その辺をちょっと危惧しております。

それで、定数 40 については、私は 4 年間やってきた中で、非常に妥当な数かなというふうに思っております。私も 40 人いればいいのではないかなと思っております。ただ、提案された理由の中に「あるべき議会」というものがありました。私は本当に、全く賛成であります。議会として、市民に報告会をすとか、そういったものが現在されておられません。やはりこれはやるべきだと思っておりますので、非常に賛同するところであります。

この 40 人というところで、先ほどの話の中ではこういったものを考慮しないで 40 人という、質とかいろいろな理由をおっしゃられておりましたので、もし私の意見に対して何かあるようであればご答弁いただいて、なければ結構でございます。

それから、提案に至るまでの経緯ですけどね、やはり私も、みんな、やっぱり市民から選ばれた人たちでありますので、みんなやはり話し合っ決めていくべきではなかったかなと思います。

先ほど 40 の話をいたしました、私は、40 は是とするところではありますが、いきなりの 40 は私は是としておりません。できるだけ影響が少ない形で、改選のたびに複数議席ずつ減らしていけたらいいのかなというふうに一応考えておりました。その辺で、重なることかもわかりませんが、またご答弁いただければと思います。

提案理由の中に「簡素で能率的な運営を期する見地から」ということであります。質の話になるのかなとは思いますが、それでは、50 人の場合と 40 人の場合、具体的にどんな違いが出るのでしょうか。これをちょっとお聞きしたいと思っております。

以上、1 問であります。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 ご質問をありがとうございます。

まず、市民・市政への影響というお話だったんですけども、影響って僕ないんじゃないかと思うんですね。議決を必要とする執行部に、議会の構成がどうなるかによって心配なことはあるかもしれません。しかしながら、都市部になればなるほど、僕も横浜なんかは仲がいいんでよく話をするんですけど、もうここなんかと違うんですよ。完全に民主党さんが天下とってるんですね。ただ、民主党さんも 2 つに分かれているところが多くて、たまたま 2 つに分かれているから自民党が第 1 党だっていうのが横浜だったと思うんですけども、都市部はどうしてもそういう傾向になってきているんだと思うんです。

それで、やっぱりどうしても公明党さんがキャスティングボードを握っているとかというのが、もう大体都市部ではそういうふうになってきているんで、そういう議会対策を今からしとかなきゃいけないってことじゃないかと思います、僕はどちらかということ。今はかなり八方美人でやってるんで、それがプラスに働くかマイナスに働くかは僕はわかりませんが、そういうことだと思います。

市民への影響っていうのは、あるんでしょうか。僕はないような気がします。ちょっと今、特段思いつきません。

それから、人口当たりの議員の数。これは、この問題を考えるとき避けて通れない話なんです、実は。ご質問者もお話しになったように、「じゃあ、人口1万人 当たりっていうのの人数を出すことに何の根拠があるのか」と言われると、これまた、それも無いんで、やはり私は船橋独自の、それぞれの地方の議会の独自性を出していくほうが大切なことだと思うので、先ほど、一番最初の提案理由の説明の中で言わせていただいたんですけども、中核市平均ですとか、近隣との均衡だとかということを考えて、船橋市議会の見識で定数を決めるということになると思います。

それから、24 コミュニティーの話が出ましたけれども、これも議論のあるところだとは思いますが、私は、これも先ほど提案理由の説明の中でお話を申し上げたんですが、地域を代表してきてるのではない。市議会議員は船橋市全域が自分の仕事のテリトリーであるというふうに皆さんが思って、皆さんが船橋市の全体を見ながら船橋市の発展を考えるほうが、よりよいことだと思っておりますので、そのところはそんなふう考えてます。

それから、改選ごとに減員をしていくっていうのは、これは1つの考え方だと思いますので、特に私は否定しませんし、議会全体でそういう決定をしたら、そういうこともありかなと。だけど、それにしても、それを提案するのはひょっとすると今じゃないかなというふうに思っています。

それから、50と40の違いっていうのは、非常に難しいご質問で、ちょっと私答えようがないなと、今ここに上がってきたんですけども、今までいろんな皆様のご質問にご答弁申し上げたことでしかお答えようのしようがないっていうんですか、ちょっと非常に難しい質問で、答えられないっていうのが私の今の率直な感想でございます。済みません。

- 渡辺賢次議員 了解です。
- 議長(浅野正明) 以上で、質疑を終結します。